第２回 小山田・小山田南地区新たな学校づくり基本計画検討会　議事要旨

開催日時		2026年8月5日（水）　13：30～15：15
開催場所		小山田小学校　２階多目的室（ウェブ会議併用）
出席者 (敬称略)	委員	和泉委員、山木委員、鹿谷委員、鏡委員、小川委員、中島委員、雑賀委員、小山委員、森委員、藤田委員、佐藤委員、◎悴田委員、〇望月委員、小林委員 （◎会長、〇副会長）
	事務局	指導課、教育総務課、新たな学校づくり推進課、施設課、学務課、保健給食課、教育センター
傍聴者		０名

議事内容（敬称略）

１　第１回推進協議会の振り返りについて

新たな学校推進課　（資料１－１、資料１－２説明）

２　論点ごとの意見交換

新たな学校推進課　（資料２－１説明）

資料２－２－１については、委員の方に請願者がいるので、直接説明いただく。

委員　資料２－２－１は令和５年９月市議会に出した請願である。2021年５月に町田市の統廃合計画が公表された頃に上小山田、下小山田の町内会でも話題になり、町内で意見は出さなきゃいけないのではないかということで、教育長宛てに要望書を出した。小山田地区はまちづくりが計画されているし、もうちょっと慎重に考えてほしいということで出したのだが、その趣旨に沿った回答をいただけなかったので、議会に対して請願をしていこうとなった。2023年８月頃に、上小山田町内会、下小山田町内会、清住平自治会の３町内会・自治会、小山田地区のまちづくり団体、５つあるがそのうちの３つ、田中谷戸まちづくり協議会、小山田中部まちづくり協議会、下小山田の大龍地区まちづくりを考える会という団体が、1,482名の署名を集めた。

これを同年９月市議会に提出し、委員会にも出席して趣旨も説明し、結果的には本会議で市議会議員36名全員の賛成をいただき、採択となった。それを受けて教育委員会は、当初は2031年の統合だったものを改定して2035年に統合したいということだが、市議会の請願が通ったことだから、統合は慎重にやっていただきたい。

行政は二元代表制で、市と議会は対等な関係と地方自治法上で言われているので、両方とも尊重しなければいけない。請願の趣旨を尊重することは大きな意義があると理解しなくてはいけない。

請願に書かれている内容は３点ある。

１点目として、小山田新駅を中心としたまちづくり構想を2016年３月に町田市都市づくり部が公表した。この計画がある状態で、現状進んでいないという問題が

あるので、今後のまちづくりで人口がどうなるかも考えなければいけないということ。この計画をつくるときに小山田小学校の児童による町のアイデアを募集している。140通、255件ものアイデアが出され、これは市のホームページにも載っている。当時、小学生だったこの学校の子どもたちにいろいろなアイデアを出してもらったにもかかわらず、それから10年経ってまだ全然具体的なものが見えてこないのは、子どもたちに対して失礼なことをしている。当時の子どもたちの思いもこれから実現していかなければならないという気持ちも込めて書かせていただいた。

２点目は、小山田地区の学区は非常に大きいということ。ほかの町田市内の統合したところに比べると、非常に大きい。まして高低差もあり、かなり課題が大きい。

３点目は、裏側に山林があり環境学習林としていたり、学校の前の道路の反対側には田んぼがあったりとすぐ現場で学習ができる。鶴見川の源流も近く、小山田緑地も近い。そういった様々なところを利用しながら地元の人たちも参加して「小山田学習」をやっている。他ではなかなかできない貴重な学習環境がある。それを単純に小山田南小と統合してやれるかというと、そんなに簡単なものではないと思う。

小山田周辺は非常にインフラ整備が遅れている地区なので、通学路の環境も非常に悪い。地元ではまちづくり団体が北側だと３つあり、市内でもそういうところはなく、それだけまちづくりの機運が上がっている地区である。地元とよく話合いをしていただき、地元もある程度納得した上で統廃合の計画を進めていただきたい。

資料２－２－２では、請願が通ったことによって教育委員会が今後どういう対応をしていくかを議会に対して答えたもの。一番下のところに、処理の経過及び結果の報告で、教育委員会では子どもの数、学級数が下回る小山田小については計画に基づいて統合を進めるべきと書かれている。しかし請願が採択されたことを受けて、小山田地区の統合新設小学校の設置時期については、今後、関係部署及び地域の方々等と意見交換を重ねていくと教育委員会としても議会に報告している。

その後、地元と教育委員会との話合いがどうなっているかというと、先ほど言った３つの町内会・自治会、３つのまちづくり団体の代表者が集まって小山田小学校の将来を考える会という団体をつくり、教育委員会と議論を重ねるという趣旨の下に話し合う場をつくっている。既にもう６回ぐらい実施しているが、お互いの主張が平行線でなかなか落としどころが見えない状況になっている。

将来を考える会の中にまちづくり団体がなぜ入っているかというと、小山田地区では昔はとても緑が多く、全てが緑だった。昭和50年代に谷戸池しかないところに桜台団地ができて公園になり、下小山田には清住平という民間の区画整理で住宅ができ、さらに上小山田には、はなみずきの丘という住宅街が区画整理でできた。残る北側にも、昭和の後期と平成の最初にURが275ヘクタールという面積を区画整理する計画があった。もしこれが実現していれば、小田急多摩線も通っているし、道路も良好なものができ、緑を生かした住宅街ができるはずだった。ところが、URが３分の１の土地を買った後に国の方針で区画整理が中止になった。URは既存の住宅は管理するけれども、新しい区画整理はやらないということで、３分の１の土地が残っ

てしまった。それが結局どうしようもなくなって、約80ヘクタールくらいを町田市が買い取り、それを町田市は北部丘陵の活性化みたいなことをよく言っている。町田市としての貴重な緑だと言っている。なので、小山田地区には町田市有地がかなりある。大変な土地だとは思うが、それを町田市が引き受けたからには管理していかなければいけないわけだが、これがなかなかうまくいっていない。過去には国の補助金を使って農業地域にしようとしたが、地元の反対でできず、その後、北部丘陵活性化計画をつくった。これも町内会が協力してやったが、なかなか活性化に至っていない。

最近では、里山環境活用保全計画をつくり、今度は緑を守っていこうという考え方になっている。ただ、これを実現していくためにはもう地元の人たちだけでは無理ということで、若い人たちも入れて山林や農地を守っていこうとか、いろいろなことを考える計画になっている。まちづくり団体としては、そのためには地域人材を増やしていかなければいけないということで活動しているが、小山田小学校の北側の山林も、かつてはマウンテンバイクのコースや、ジップラインを作って、我々も協力していろんなことをやっていたが、最近は倒木が多く危険なので中断している。

今後、そういったことをやっていくためにも若い人たちがいなきゃいけないということがあるが、この地区の小学校がなくなってしまうと、遠いところに通わせるのは親として忍びないので、だんだん若い人たちが移動していってしまう可能性がある。それをまちづくり団体は非常に心配している。若い人が住まなくなると、緑を守るための人材も減ってしまう。なので、子どものこともちろん一番大切なことだが、まちづくりの視点から考えた場合に、そういった町を担っていく人たちがいなくなってしまうことに非常に危機感を持っている。ということで、やはり慎重にやっていただきたい。

一番問題なのは、まちづくりの計画を都市づくり部で作っているが、教育委員会と考え方が連動していないこと。農業振興課は、さらに、北部丘陵の緑の保全にもっと人材が必要と言っており、いろいろなことが絡んでいるが、そういったことを市として一体として考えていただきたい。

新たな学校推進課　請願の趣旨等をご説明いただき、資料２－２－２の部分も説明いただいた。

市教委はこれを受けて、地域の方々等との意見交換を、これまで７回程度させていただいている。

（資料２－２－３説明）

先ほどの資料２－１に戻り、話合いの到達点として、まちづくりの計画がある中で今後の教育環境整備をどのようにしていくかという議論の進め方や方向性を模索していきたい。

会長　　それでは、テーマ①「まちづくりとの向き合い方について」の議論をお願いする。

〔　ワークショップ　〕

≪テーマ１で出たご意見≫

・　どうなるかわからないことと学校のことを一緒に考えるのはおかしい。
・　鉄道にしても、モノレールにしても決まらない中で、何をもとに考えればいいのかはすごく難しい。
・　コミュニティーを一番心配している。今は学校しかなく、他にお店があるわけではない。地域で勤めているわけでもないので、何となくここから人が離れていってしまうのではないか。
・　いつ来るか分からない鉄道を当てにして先延ばしにするよりは、老朽化という問題があるから、市がお金を出せるなら小山田小を建て替えてと、子どもは少ないけれども、この場所で建て替えて、早くきれいな校舎ができればいい。新しい校舎ができれば、引っ越してくる人や図師小に行っている子たちも来るかもしれない。
・　どちらの学校も人数が減ってきてしまっているので、小山田小・南小ではなくて、両校合わせた「小山田地区」として、どうやって若い世代を引きつけて住もうと思ってもらえるかが課題だと思っている。
・　もしこの延伸計画がなくなって、うやむやなまま小山田の開発が放っておかれることになったとしても、新しい学校づくりに切り替えできるように、新しい学校をどういうふうにしようかにフォーカスして議論するべき。
・　まちづくりが先だというわけではなく、この会議の趣旨自体は子どもたちをどういう環境にしたらいいかということなので、統合ありきで進める話でもいいと思う。この会議はまちづくりのことを話し合う会議ではないので、まちづくりの話はある程度でいいと思う。
・　小山田小をなくしてしまって本当にいいのかというのは常に思っている。2027年に鉄道の延伸の１つの結果が出るので、その様子を見てもいいのではないかなと思っている。
・　期限を決めないで統合という意見には賛成する。どんな学校にしたらいいのかという議論をここでは進めていきたい。
・　延伸計画の方向性が2027年に決まるということなので、平行になるがこの会では、学校をつくっていくという話で進めていくべき。

会長　　テーマ①についてはここまでとし、テーマ②に移る。

新たな学校推進課　テーマ②「通学における課題と対策について」について、委員の方々で少し掘り下げて話をしていただきたい。

ポイントとしては、統合により学区が広がって通学負担が課題となるということ、通学の課題に対してどんな対策や準備が必要なのか、それから、本格的な検討をしていくとしたら、いつから行い対応すべきことなのかなどがあげられる。

（資料２－３－１、資料２－３－２　説明）

学務課　　（参考資料　説明）

委員　　今現在、学区外に行っている児童は114名。小山田小学校に今在籍している児童が198名ということは、40%ぐらいが他に移っている。この地区からいったら、学区がないことと同じではないか。東京都の区部の中で、もうちょっと緩和的にやっているところもあると聞いている。それは、全ての地域にインフラが整い、病院・ス

ーパーなどがあって、どこでも住める環境になってるからだと思う。しかし、小山田小の学区は、インフラ整備など何もかもが中心地より遅れている。

先ほど弾力的な運用と言ったが、他の学区でも同じようなことが起こっているのか。小山田小だけの特殊なことなのか。もし特殊なことであれば、小山田小の先生はかわいそうだ。極端に言ったら、１学級１人、今、全部で７学級なので７人しかいない中で学校を運営している。運動会やほかの行事なども全部そうやって運用していて、他の学校と全然違う。そういうこともある中で、学務課はこの学区緩和制度をやっている。やめる考えはあるか。

前回資料の２ページの⑵単学級化・小規模校化の進展に、2024年度に単学級化している小学校は２校（小山田小学校、大戸小学校）と書いてあるが、2024年度だったら、小山田小学校は単学級ではない。だとするとこの文章は間違っていることになる。もしこの緩和制度がなければ、小山田小は単学級ではない。もう少し先生方も楽になっていたと思う。

新たな学校推進課　確かに、緩和で外に出ている児童がそのまま小山田小に行けば単学級ではない状態にはなるが、小山田小が指定校で緩和制度を使って外に行っている児童のほとんどは小山田南小に行っている。小山田小と小山田南小の地区で考えたときには、全体の対象児童数は変わらない。単学級化が進んでいるところは優先するということは計画の中で示しているが、それとともに、2030年度までに12学級未満になる学校も優先していくし、2030年度の時点で統合校両校が小規模校化している学校や、減少が見込まれる学校も優先順位を高くしている。仮に小山田小の緩和の児童が小山田小に行っていたとしても、この地区の計画自体は変わらないと考えている。

学務課　緩和制度、学区外通学制度の利用については、小山田小学校の学区に限らず、ほかの地域でも適用している制度。基本的に理由を問うものではなく、例年、通学の距離や、校風など、一定の需要の下、お子さんの負担の軽減もあるので、引き続き、制度としては運用していく。

委員　他の学区ではどうなのか。この地区と同じように移動しているところはあるのか。全体の４割ぐらいも移動する。それを学区と言えるのか。

委員　図師小じゃなかったら、小山田南小なのか。

学務課　図師小もバスで通われている。

委員　バスに乗って、むしろ負担をかけて行っている。家庭的には負担がかかっているがそれでも行っている。

学務課　何を負担として考えるかについては、保護者とお子さんの中で、もちろん小山田小の学区の中でも小山田南小の方が近い子もいるので、そこは家庭の判断を優先させてもらえればと考えている。

小山田小学区は学区外通学の利用者が確かに多い地域ではあるが、他のところでも小学校、中学校ともに２桁以上の子どもが他の学区の学校に学区外通学制度を利用して進学しているケースもある。

委員　下小山田町内の中で、実際には学区が６地区あって、そのうちの宮の前地区は、図

師小ができた時点で学区が小山田小から図師小に変更になっている。できてから50年ぐらい、私が子どものときは小山田小学校に通っていたが、その後の子どもたちはみんな図師小に通っている。その数からいうと、5、60人は通っていると思う。図師小ができたときに、なぜ下小山田の中の宮の前だけ小山田小から図師小に学区が変更になったのか。

学務課　　もともと図師小学校ができた際に、当時、忠生第一小学校の児童数の増加をもって図師小学校を新設した経緯がある。その際に、当時の小山田小学校の学区と忠生第一小学校の学区の一部を引き継ぐ形で、図師小学校を新設した。

委員　　ということは、図師小学校をつくるために学区を変更したということか。

学務課　　図師小学校を新設する際に学区の一部を変更する形で、図師小学校は新設校なので新しい学区として設定する必要があり、その際に当時の小山田小学校の学区の一部を新設校となる図師小学校の学区に組み込んだ。

委員　　通学区域緩和制度で小山田小から他の学校に行けるのが悪いみたいになっているが、ここのエリアだけそれを制限することは到底無理な話で、そんなことをしたら保護者は劇的に怒ると思う。これはもう広まっている制度で、選べるということが保護者にとってはメリットなので、子どもが小さいときはあまり考えないけれども、年相応になってきたときにどっちの学校がいいかと選べることが魅力の一つになっている。

結果的に選ばれたか選ばれなかったかであり、小山田小を選んでいる子どもたち、家庭もあるし、小山田南小を選んでいるケースもある。これをどうこうしよということは今からは不可能だと思うし、この学校しか通えないエリアだと分かっていたら、その家庭は引っ越してこないことになり、選ばれないということになるだけだと思う。私も外から来て、こちらに家を建てて住んでいるが、やはり不動産屋さんに、小学校はどんな感じかとか、選べるのかといった話は絶対聞くので、これをいじってどうこうということは今することではないと思う。

委員　　114名の方が小山田小から他の小学校に行っている状況だということなので、小山田小の学区はやはり子どもがすごく減っているんだと思っていたが、潜在的には意外と小山田の北側にも住んでいるという事情が分かった。

実際にはそんなことはできないけれども、もし学区どおりでやった場合は、小山田小と小山田南小の子どもたちの数はそんなに違わない状況で、パイの奪い合いをするわけではないが、実態はそうだということはよく分かった。

それで、またまちづくりの話で申し訳ないが、将来的にもし本当に小山田新駅が実現するようなことになれば、そういった計画が決まった段階で、いろいろな不動産情報とかを見て人が集まってくる可能性がある。そうすると、どんどんこの地区に住宅が増えて人が集まってくる。そうすると、逆にまた学校が必要になってくる可能性も将来出てくることもある。そういった意味で、この議論の中で、まちづくりとは別に統合に向けての議論をすることは構わないと思っているが、統合時期については、これからのまちづくりの進捗状況も気にしてもらい、統合時期は2035年と

固定をしないで、これも同時に考えていくような形でやっていただければと思う。

会長　　熱い議論に感謝する。予定していた内容が、時間が押しているので、３つ目にテーマとして挙げていた「子どもたちのためにできることについて」については、次回に実施することとする。今からテーマ②の通学について話合いをしていただくように変えさせていただく。

〔　ワークショップ　〕

≪テーマ２で出たご意見≫

- バスの費用負担について、望んで通っているわけでなく、行政の都合で学校が動いたわけなので、それで通えなくなった家庭に年間で１万円以上の負担をしてもらうことの理解が得られるのかはちょっと気になる。
- 義務教育なのに通学にお金を払わなきゃいけないというのはおかしいと思う。
- 指定校なのに通学費の負担があるというのはどう見てもおかしい。
- 今は給食費でさえ無償化になっているので、考え方自体は変わる可能性はあるのかなという気はする。
- 公共交通のバスを子どもたちが利用することになって、幼稚園から上がったばかりの児童を満員のバスに乗せるのは、車内トラブルなども含め、保護者としてはすごく心配だ。
- 暑い日の２キロはとても辛い。遠い子は、ラムネやあめなどを食べながらでも帰れるようにとか、日陰に座って休めるものを造ってあげるとか、子ども110番のような、ピンポンしてお水をもらってもいいよみたいなところが整備できたらいいと思う。
- 水分を途中で取るよう指導はしているが、やはり通学距離が長いというのはリスクが非常に高い。荷物らくらく登校の制度が始まり、荷物を軽くしていくというのは、学校としてはありがたい。
- 学校が新しくなるわけだから、基本的には通学費用は無料にすべきと思っている。
- 自分が行きたいのはお金を出したって構わないが、統合はそうではない。そういう制度をつくるべき。
- 単純に2キロというのは違うのではないか。私が通っていた小学校では、１年生から３年生までは近くてもバスに乗れた。４、５、６年生になると乗れなくなるエリアもあった。
- スクールバスを運行するにしても道路整備を進めなければいろんな意味で大変だと思う。バスが通りやすいような道路に広げなければいけない。
- 車内マナーの指導が必要。ただ指導しても、すぐは変われない子もいるので、その辺をどうするのかで、学校の負担が増える気がする。
- 送り迎えができる学校づくりをしないと今後は難しいと思う。ロータリーを造るであるとか、駐車場を完備しているとか、そういう学校づくりをしてほしい。
- 地方では、子どもたちの通学のバスに地域の人も乗って買物に行けるとか、コミュニティバスみたいにしているところもある。
- ファミリーサポートなども遅れてしまった時のバックアッププランとして使えるといいのかもしれない。

会長　　時間になったので、議論をここまでとし、各グループから報告をお願いする。

新たな学校推進課　こちらのグループでは、1つ目のまちづくりのテーマの部分に関して、見通せないものがあって前提が決まっていない中で考えていくのは非常に難しいという話が多くあった。どういう前提を決めていくか、それをどう持つかみたいなところは何らか持っていかないと、空中分解ではないが、議論が難しくなってしまう、という意見が出た。

他にも老朽化という部分もあったので、築年数の話や、それと統合するということを一緒に考えるのはどうか、という意見もあった。また、学校がなくなるとコミュニティーが廃れていってしまう、離れていってしまう、という部分も懸念するという意見がまちづくりのテーマからは出ていた。

２つ目の通学のテーマに関しては、通学に関する費用負担の話が多くあり、路線バスを今使っている家庭、子どもに定期券代の３分の２を補助しているが、スクールバスなどになった場合、その費用負担はどうなるのかというところで意見を様々いただいた。やはり指定校に通うことなので、行政の都合で遠くなって行かなくてはいけないのだから、その中で負担を求めるのは違うのではないかという意見がこのグループの皆からあった。

その他、今後の細かい検討にはなると思うが、スクールバス等の運用をしていくに当たって懸念として考えられることについても意見をいただいた。

新たな学校推進課　こちらのグループは、1つ目のまちづくりのテーマについては、やはり2035年を固定で考えるのは違うという意見はありつつも、とはいえこのまま何も議論をしないというのも違う、という意見をいただいた。何も準備できていない状態でそのときを迎えてしまうのは違うということで、ここは学校づくりの会議なので、１つの計画として考えて、検討は並行して進めるべきではないかという意見をいただいた。

学校づくりもまちづくりの一つと考えたときに、鶏と卵ではないが、学校づくりで人を呼び込むという意味での意見もいただいた。特色ある教育があるというのも大事だし、学力向上を特色にしてもいい。地域資源を活かして魅力がある学校になるといいという意見をいただいた。

2つ目の通学のテーマについてだが、やはり２キロを超える方の考え方、一律に２キロというわけではなくて、もう少し柔軟に考えてほしいという意見があった。学年によって、低学年と高学年では訳が違うというところもあるのではないか、補助については、希望して来ている学校なわけではないので、やはり全負担があるのは違うのではないかという意見をいただいた。

あとは、バスの車内マナーや乗り方への配慮があるといいという意見や、車での送り迎えも前提とした校舎の整備、車を停められる場所があるといい、スクールバスを地域の方も利用できるようなバスということで、共用も考えていいのではないかという意見もあった。また、第三の受皿ということで、ファミリーサポートのようなサービスを使うことも考えてもいいのではないかなど、いろいろな通学における

選択肢を持つということについて議論が進んだ。

会長　　以上で、本日の議事は終了となる。次回に向けて、事務局から連絡をお願いする。

新たな学校推進課　今日、飛ばしたテーマや、今回いただいた意見もたくさんあるので、改めてやり方など整理をしながら会長とも相談して、次回の内容は整えさせていただく。

（次回開催日程確認）

会長　　（閉会のあいさつ）